

日本のガウディと呼ばれた建築家の想像力が発揮された
隠れた名建築

大阪商工信用金庫本店ビル

〔旧本町ビルディング〕

内部見学不可。平成29年新社屋完成予定。



戦後の高度経済成長期、船場には数多くのオフィスビルが建設された。当時日本の建築は高さ31m（100尺）に制限されていたので、御堂筋以外でも大通りに面した市街地には、スカイラインの揃った都市景観が形成された。このビルを特徴付けるのは、屋上の塔屋に設けられた巨大なレリーフ。1,000名を超えると想定されたテナント入居者の憩いの場となる屋上広場を飾るものとして、ガウディに大きな影響を受けた建築家・今井兼次がデザインした。本町ビルディングは建築家・安藤忠雄による建て替えが計画されているが、このビルと街の歴史を継承するために、屋上のフェニックス・モザイクと、低層部のレリーフは保存される予定。（高岡伸一）

旧 称：東邦商事本町ビル
所在地：大阪市中央区本町 2-2-7
建設年：1961年
構造・規模：SRC造9階、地下2階
設 計：日建設計（塔屋レリーフ：今井兼次）